

令和4年度 自己評価表

※評価基準： A＝達成できた
B＝おおむね達成できた
C＝ある程度達成できたが改善が必要
D＝達成できなかった

重点目標 1 安全・安心な学校づくり ①安全管理の徹底と防災・安全教育の充実 ②心身の健康を守る保健・安全教育の推進

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
小学部	1 安全・安心な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続 ・ 新規)	1 安全管理の徹底 ・ 過年度のヒヤリハットを検証する。 ・ 教員内での教育環境整備への意識付けを図る。 ・ 事故防止のための児童の実態把握及び教員間での共通理解を図る。 2 防災・安全教育の充実 ・ イラストなどによる分かりやすい支援をする。 ・ 自主的な行動を促すための指導を実施する。 ・ 振り返りの実施で次回への改善に繋げる。 ・ 地震初期対応実態表にて確認する。	B	A：44% B：53% C：3% D：0%	評価項目 (1) A：65% B：31% C：2% D：0% E：2%	反省・課題	・1学期はヒヤリハットの発生事例がいくつか見られたが、教員のヒヤリハット回避への意識が高まったことと児童の実態把握ができてくるにつれ減少傾向にある。 ・地震初期対応訓練にてイラストを使つての支援や振り返りなどを重ねることで、自主的に、または周囲の様子を見て机の下に潜るなど、自分の身を守る行動をとれるようになってきた。
		・安全管理に関して教員間で共通理解を図り、ヒヤリハットの防止に努める。防災・安全教育においては「自分の身を守る行動をとる」ことのできる児童の育成を目指す。					改善策	・今後もヒヤリハット防止に努めるとともに、教師間の児童の実態についての共通理解を深め、次年度への引継ぎを丁寧に行う。 ・防災訓練全般において、発達段階や実態に応じて「自分の身を守る行動」についての支援を拡げ、防災教育の充実を目指す。
保健指導部	1 安全・安心な学校づくり ②心身の健康を守る保健・安全教育の推進	(継続 ・ 新規)	1 全教職員に基本的な感染症対策の必要性や本校ガイドラインについて周知し、教職員の意識の向上と共通理解を図る。 2 感染症予防・拡大防止ときれいな学校を目指し、必要に応じた消毒と洗面台やトイレの清掃を徹底する。また、それに必要な物品の管理や補充を適切に行う。	B	A：56% B：40% C：4% D：0%	評価項目 (2) A：56% B：34% C：6% D：2% E：2%	反省・課題	・年度始めの新任者へのガイドラインの説明や対応変更時の全体連絡等で大まかに共通理解を図ることができた。ただ、細かい点やレベル変更時等の確認や周知については不足しているところもあった。
		・安全できれいな学校作りを目指し、感染症対策と清掃を教職員が共通の意識をもって取り組む。					改善策	・定期的に周知と確認を行うとともに、感染症への対応等に変更があった際には迅速な対応と周知を行い、さらなる共通理解を図る。 ・取組を継続しつつ、教職員の負担を少しでも減らせるような方策を検討し進める。
保健指導部	1 安全・安心な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続 ・ 新規)	1 消防署や危機管理委員会からの意見を取り入れたり、地域の防災訓練の様子を参考にしたりしながら訓練やその他の防災関係を見直す。 2 備蓄品の管理と適正数の把握・追加を行い、教職員だけでなく保護者や児童生徒へも周知する。	B	A：56% B：42% C：2% D：0%	評価項目 (1) A：65% B：31% C：2% D：0% E：2%	反省・課題	・今年度から引き渡し訓練については学年を絞った形で実施した。安全に実施することはできたが、参加保護者は7割程度だった。成果や反省を踏まえ、次年度に向けた方向性を危機管理委員会で検討できた。また、防災訓練の曖昧な点についてはその都度消防署に相談し確認できた。 ・備蓄品については整理と確認を行い、防災研修や防災だより、訓練の機会をとおして職員への周知を行うことができた。
		・実際の災害や学校の実情に応じた防災訓練・引き渡し訓練の実施と、備蓄品の整理と周知を行う。					改善策	・防災訓練・引き渡し訓練については、地域の訓練参加を踏まえたり、部内または危機管理委員会で成果と課題を検討したりして来年度に生かしていく。また、防災関連の曖昧な点についてはその都度消防署に相談し確認する。 ・備蓄品については、防災週間や防災訓練、防災だより、HPをとおして児童生徒や保護者に周知していく。また、賞味期限の迫ったものや県からの物品等でも積極的に周知していく。

生徒指導部	1 安全・安心な学校づくり ②心身の健康を守る保健・安全教育の推進	(継続)・新規)	1 年間を通して教職員による登下校時の通学指導（スクールバス車中指導およびバス停巡回指導や単独通学生対象の駅指導、通学路立哨指導）を行う。 2 構内の入退構についてのルールを丁寧に説明し、事故のないように誘導する（構内安全強化週間の実施）。 3 不審者対応研修を実施し、児童生徒の危険を防ぐ知識や技能を学ぶ。 4 保護者会等における丁寧な説明や生徒指導だよりの発行、HPでの掲載等を行うことで安全教育の啓発を行う。	B	A : 55 % B : 42 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (3) A : 62% B : 13% C : 13% D : 3% E : 9%	反省・課題	・年間を通して行う通学指導とは別に、その他問題が生じた場合には、その都度通学指導を行ってきた。即時対応を心掛け、問題が発覚した際は早急に対応を行った。解決できた事案、経過観察中の事案等あり、引き続き経過を見守らなければならない状況は続いた。 ・年度当初の保護者会等について新型コロナウイルス感染症の影響で直接説明ができずに書面通知のみとなり、保護者への啓発について、生徒指導だよりとHPに偏ってしまった。
		・児童生徒の登下校時及び休日中の事件や事故を未然に防ぐために、児童生徒に対する指導の充実や教職員、保護者への啓発を含めた指導体制を整えて指導にあたる。					改善策	・現在、児童生徒の事故、問題行動、いじめ事案については校内の書式を使用して組織として把握できている。スクールバス関係の問題について、車内、バス停、車両等多様にあるため、校内の書式を使い、共有しながら対応を行う。（対応事例の蓄積） ・次年度以降も新型コロナウイルス感染症の影響で対面での説明が難しい場合は、書面を工夫して必要な情報を保護者に伝え、啓発活動を行う。
事務部	1 安全・安心な学校づくり ①安全管理と防災・安全教育の充実	(継続)・新規)	1 安全点検等で報告のあった破損箇所や基幹箇所について、緊急度等を勘案し、予算の範囲内で修繕等を実施する。 2 予算不足等により、直ちに実施出来ない箇所については、本庁と協議の上、早期の実施を検討する。	B	A : 43 % B : 54 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (4) A : 44% B : 37% C : 5% D : 2% E : 12%	反省・課題	・校庭の遊具の点検結果で危険であると判定されたブランコ、回転遊具等改良および撤去を実施したが新たな問題が発覚して全面的に児童生徒の利用に至っていない。
		・危険個所の修繕、改善を実施する。					改善策	・新規遊具の設置とともに既存遊具等の安全な利用に向け検討する。

重点目標 2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の充実

部	関連する 重点目標	取組目標	取組方法	自己評価		保護者 アンケート	反省と課題及び改善策	
				A～D	集計結果			
小学部	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 ICT教育の充実 ・生活単元学習の年間指導計画にプログラミング教育の単元を組み込む。 ・情報部と連携し、研修会の実施や実践例及びソフトの紹介などを行う。 ・授業実践後、単元指導計画にて反省を記入し、画像を記録として保存する。 2 保護者への啓発 ・授業参観でICT教育を取り入れた授業を行う。 ・ブロック便りやホームページにて授業の様子を紹介する。	B	A : 41 % B : 56 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (5) A : 49% B : 35% C : 7% D : 1% E : 8%	反省・課題	・今年度より、生活単元学習で各学年の児童の実態に応じたプログラミング教育の学習を実施し、その様子をブロック便りやホームページで知らせることができた。また、学部会にて情報部よりソフトの紹介などを積極的に行うことができた。授業参観で情報機器を使用した授業を実施できた学年もあったが、学年の実態によっては十分な活用が難しく保護者への啓発に繋がらなかった。
		・児童の実態に応じたICT教育の充実を目指し、ICT教育を取り入れた授業の実践及び保護者への啓発を積極的に行う。					改善策	・学年の児童の実態に応じたICT教育を目指し、引き続きプログラミング教育とソフトの紹介を実施していく。ぜひ、授業参観で情報機器を使用した授業を実施するように、学部会などを通じて共通理解を図っていく。
中学部	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 ICTを活用した授業を行い、良い取組を学部内で広め、互いに学ぶ合うことで、授業実践の数を増やす。また、他校の取組を調べ、授業実践に活用する。(通年) 2 ICTを活用した授業を保護者へ周知する。(授業参観、保護者会、個別懇談、学年だより等)(通年) 3 自立活動の研修や研修資料の配布を行う。(通年) 4 自立活動の実践や手立てを増やし、グループでのケース会議を行うことで、生徒の実態把握や自立活動の理解を深め、指導の充実や自立活動目標設定シート作成の習熟につなげる。(通年) 5 昨年度の実践を継続し、三つの柱、3観点に沿った単元計画、略案の様式の検討しながら、授業実践や授業改善を行う。また、生活単元計画の年間指導計画を吟味し、3年間という視点から学年間のつながりや系統性の見直しをする。(通年)	B	A : 41 % B : 56 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (5) A : 49% B : 35% C : 7% D : 1% E : 8%	反省・課題	・ほぼ毎月の学部会でICT活用に関する情報や教材紹介を行い、学部での授業実践が増えた。生徒は、タブレットPCを使っている検索や電子黒板を使ったりモートによるやりとり慣れたり、国語数学等のアプリ課題に一人で取り組めたりするなど、ICT利用が授業の中で身近なものになった。また、保護者会で授業公開をしたり、総合教育センターによるICTを活用した調査研究に取り組んだり、ICT利用に関する今年度の取組を栃高教研特別支援教育部会報としてまとめたりすることができた。課題は、ICT利用ありきの使い方や一斉説明での使用が多く、個の実態に応じた指導支援の中で生かされていないことである。生徒の実態に応じて目標設定をし、手立ての一つとしてICT利用を組み込み、評価へという流れへと変えていく必要がある。 ・学部で自立活動に関する研修会を複数設けたり、全教員が担当する生徒について自立活動目標設定シートを作成し、関係教員で目標設定シートの内容を協議したりすることができた。 ・生活単元学習の単元の反省を3ヵ月ごとに各学年会で協議し、協議内容を報告書としてまとめることができた。年度末に次年度の年間指導計画の見直しで活用する予定である。
		・ICTを活用した授業や課題研究(自立活動、授業改善)を推進し、学習指導の充実を図る。					改善策	・今年度の取組の流れであるICT活用について学部で紹介→実践→良い実践の共有を次年度も継続し、実践の数を増やす。また、年間指導計画に位置付けたICT活用に関する単元を行い、単元内容や系統性を吟味する。さらに、ICT活用を個に応じた指導の中で進めていくため、個別の指導計画や自立活動目標設定シートにおいて目標や手立ての内容にICT利用を組み入れ、計画的に学習する。 ・自立活動の目標設定シート作成同様、自立活動の具体的な指導方法や手立てについて複数教員で実施、振り返りを行い、改善していく。 ・今年度末に、生活単元学習の単元設定や配置について、計画どおり今後実施する。

中 学 部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続 ・ 新規)	1 中学部各作業班で共通して育成を目指す資質や能力をまとめ、一覧として周知、共有することで、指導、支援の視点を明確化し、各作業班での指導、支援の質の向上につなげる。(～5月)	B	A : 42 % B : 55 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (6) A : 56% B : 33% C : 6% D : 1% E : 4%	反省・課題	・高等部の作業日誌等をもとに、学部で育成を目指す資質や能力を整理した。そして、それらの力を、毎回の作業学習の最初で生徒と一緒に意識して取り組むべき目標として確認し、授業後、振り返りを行うというサイクルを作り、全作業班で取り組むことができた。さらに、それらの力をもとに作業班の日誌、職場体験の日誌、校内実習の日誌を新たに作成することができた。 ・障害の重度化に合わせて、軽作業班の作業内容に新たに紙すき作業を加え、作業の幅を広げることができた。生徒の障害の重度化に合わせて、他の作業班でも作業内容を検討する必要がある。 ・感染症対策のため、中学部高等部での合同作業を行うことができなかった。
		・作業学習をきっかけに中学部内、中学部高等部内でつながりある指導を広げ、学習指導の充実を図る。	2 視覚的支援や支援ツール等の教材や各作業班の取組を周知し、学部内で共有することで、授業作りや指導、支援の拡充につなげる。(通年) 3 授業当初での目標設定、授業まとめでの評価を固定して取り組むことで、目標設定、振り返りのサイクルを習慣化できるようにする。(通年) 4 高等部実習ノートや作業日誌を参考に、中学部の実習ノートや作業日誌を見直す。また、校内実習での作業内容に高等部特設班の作業内容を加え、作業経験を広げる。(1月) 5 高等部が職業充実指導でまとめた清掃マニュアルを周知し、清掃指導や自立活動等での取組に用いる。(～5月) 6 中高農業班での合同作業、高等部サービス班による清掃指導など、学部を超えた生徒同士による学び合いの機会を創設する。(通年) 7 作業学習での取組を日常生活の指導の中へ派生して指導することで、働くことと生活することの関連やつながりを意識できるようにする。(通年)				改善策	・授業で目標の確認→授業後の振り返りというサイクルを次年度も継続する。目標と振り返りの方法について見直す機会を設け、内容の吟味や改善を行う。 ・実習日誌、職場体験日誌、作業班の日誌を次年度継続する。内容や書式について見直す機会を設け、内容の吟味や改善を行う。 ・障害の重度化に合わせて、全作業班で作業内容を検討する。 ・感染レベルに応じて、高等部サービス班との屋外での合同清掃や高等部農業班との畑での合同作業など、中高合同の学習を可能な限り実施し、中高等部でつながりある指導を行う。
訪 問 教 育 学 級	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続 ・ 新規)	1 昨年度、オンラインで行われた授業や行事の良かった点や見直すべき点を振り返り、共通理解を図る。(4月)	B	A : 41 % B : 56 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (5) A : 49% B : 35% C : 7% D : 1% E : 8%	反省・課題	・昨年度までの授業や行事の持ち方の反省を生かし、改善しながら、今年度学習活動を行うことができた。行事に関しては、今年度も感染状況に応じて、予定通り実施、規模を縮小して実施、オンラインで実施、延期、中止と対応をしてきた。昨年度の反省を生かし、事前の準備を丁寧に行い、直前の変更にも混乱することなく実施することができた。 ・オンラインでの授業や行事に関しては、3年目となり充実したものとなったが、保護者の評価としてはあまり高いものではなかった。
		・ZoomやTeams等のアプリケーションを活用し、コロナ禍における安心安全な教育活動の実践を図る。 ・オンライン授業や行事（児童生徒の家庭と学校、家庭同士）の質の向上を図る。	2 コロナの感染状況により、その都度授業の持ち方や行事の実施方法について検討をする。(通年) ・オンライン授業を含め、訪問教育学級の授業のガイドラインの見直し。 ・オンライン授業やオンラインでの行事の内容の充実を図る。 3 授業や行事の実践をし、その都度反省改善していく。(通年) 4 今年度の実践を振り返り、来年度の実践に生かせるようにする。				改善策	・次年度も、今までの反省を生かし、児童生徒にも保護者にも、より充実した活動に向けて内容等の工夫改善をしていく。 ・保護者に、オンライン授業やICTを利用した学習についての説明を年度当初にする機会を作る。また、保護者の御意見をよく聞き取るようにしていく。

学習指導部	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(<u>継続</u> ・ 新規)	1 各自担当する授業においてICT活用についてを指導略案等に記載して実践していく。(年間) 2 情報部と連携し、ICTを活用した教材例や授業実践例の提案をし、各学部の発達段階に応じて授業に取り入れていく。(年間) 3 実践例となる事例を集積し、指導略案等を教材フォルダ上で校内全体で共有する。 4 プログラミング教育について実践し、実践例や使用した教材等について学校全体で共有していく。	B	A : 41 % B : 56 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (5) A : 49% B : 35% C : 7% D : 1% E : 8%	反省・課題	・ICT機器の充実に伴い、各学部においてICTを取り入れた学習を展開することができた。 ・特別活動や交流学習などにおいては、リモート接続や動画等のICTを取り入れた学習活動を取り入れるなどの広がりがあった。 ・プログラミングの単元を導入し実践することができた。また、プログラミング学習に有効な教材の活用をとおして発達段階に応じた学習をすすめることができた。
		・ICT教育の理解・推進、ICTを活用した教材や授業実践例の提案・情報の共有、プログラミング教育の実践					改善策	・引き続きICT機器を活用したよりよい効果的な授業の実践ができるよう、単元計画や授業計画略案等に記載していけるようにする。 ・プログラミング教育について、学習内容の系統性について検討していく。 ・タブレット端末の活用の仕方や、学習に有用なアプリなどについて情報共有を行い、各学部の児童生徒の発達段階に合わせて取り入れられるようにする。
学習指導部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続 ・ <u>新規</u>)	1 キャリア教育について研修し、本校のキャリア教育全体計画等について学校全体で理解を深める。 2 キャリアパスポートの活用や意義についてあらためて周知し、必要に応じて綴る記録等の検討を行う。 3 教育研究会テーマCと関連させながら、各学部児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の視点に立った学習内容の検討をし、実践していく。また、研修部、研究推進委員会と連携を図りながら、各学部でその視点を共有していく。 4 キャリア教育の視点に立った学習内容について、指導略案や単元指導計画の該当欄に記載する。	B	A : 37 % B : 58 % C : 5 % D : 0 %	評価項目 (6) A : 56% B : 33% C : 6% D : 1% E : 4%	反省・課題	・キャリア教育について本校の全体計画について課題研究日に全体へ周知した。 ・小学部においては課題研究の中で全体計画にふれながらキャリア教育の視点で学習活動の取り組みを振り返り検討する等を実践した。 ・学校全体としてキャリア教育についての理解を促進することが難しかった。
		・キャリア教育の理解、教育課程研究会テーマCと関連させたキャリア教育の視点に立った学習指導の実践					改善策	・キャリア教育についての理解や、キャリア教育を推進していくための教師側の視点のあり方などについて、学部会等を通して知識を共有していけるようにする。 ・課題研究における実践を通してキャリア教育の視点で単元指導計画の学習内容や学習活動を見直し検討していく。 ・キャリアパスポートの活用について、各学部の児童生徒の発達段階に合わせてそのあり方を検討していく。

重点目標 2 学習指導の充実

情報部	2 学習指導の充実 ①ICTを活用した指導の充実	(継続)・新規)	・教員へのサポートを行う。学習指導部教科部会と連携。(情報機器の保守点検、教材や授業例の紹介)「学習指導部と連携」【情報視聴覚機器係・情報教育係】 ・保護者へのICT教育の取り組みへを周知し、理解を深める。【HP・広報係】	B	A : 41 % B : 56 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (5) A : 49% B : 35% C : 7% D : 1% E : 8%	反省・課題	・情報機器の保守点検は予定通り実施した。タブレットPCのアップデートも各クラスで先生方が行うようになった。 ・教材や授業例の紹介は毎月の学部会を利用して先生方に紹介をした。 ・HPへのICTの取り組みの紹介が十分ではなかった。
		・GIGAスクールで配備されたタブレットPCの有効活用を図る。					改善策	・情報機器の保守点検について、各クラスで行うように来年度もお願いをしていく。 ・教材や授業例の紹介も来年度も紹介の仕方を工夫し継続して行う。 ・HPへの紹介をどの学部でもきちんと担当をきめて忘れずに公開できるようにしていく。
高等部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 方針やスケジュールについての確認、自立活動に関する研修(～6月) 2 自立活動目標シートを作成し対象生徒の実態や手立てを確認する(～9月) 3 自立活動目標シートをもとに作業班別で対象生徒(1名)の目標や手立てを検討する。(～12月) 4 3を参考に、各自の対象生徒の次年度に向けた目標設定について検討する。(～2月)	B	A : 44 % B : 53 % C : 3 % D : 0 %	評価項目 (6) A : 56% B : 33% C : 6% D : 1% E : 4%	反省・課題	・自立活動シートに基づいて実態把握、強みや課題の洗い出し、指導実践の流れが確認できた。これまでの個別作成の流れと大きく異なるため、作成手順の確認や研修が必要であると思われる。 ・個別の指導計画では、長期目標の内容が、教科別のため、自活シート作成から指導計画の作成・指導実践に落とし込みにくい。
		進路決定に向けて、自立活動の視点に基づいたキャリア教育の推進を図る					改善策	・自立活動シート作成については、研究などと関連させ、研修のもと取り組み、支援の見直しや指導を行うことで生徒の変容につなげていく。 ・個別の様式については、反省として挙げるが、校内の様式に準じて作成していく。
進路指導部	2 学習指導の充実 ②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進	(継続)・新規)	1 中学部実習の事前事後学習の機会に高等部実習についての学習を行い、体験や教材の共有を図る。 2 進路決定に向けて生徒の課題を共通理解、支援の連携を図る。 高等部は進路決定に向けて、ステップアップ表を活用し教員間で課題の共通理解、支援の連携によって課題の改善、克服を目指す。	B	A : 42 % B : 55 % C : 4 % D : 0 %	評価項目 (6) A : 56% B : 33% C : 6% D : 1% E : 4%	反省・課題	1 3学期の実習で高等部の産業現場等における実習動画の視聴と校内実習の見学を計画している。 2 高等部のステップアップ表については、一人一人記入はされているが、支援の連携などの活用については作業班ごとに差があった。
		進路決定までを見通した高等部と中学部の実習における関連を図る。					改善策	1 高等部に向けての準備や見通しという目的で、3学期の学習で高等部についての学習を特に盛り込めれば良い。 2 作業班でもっと活用しやすいように、様式の変更を検討しながら教職員の共通理解を進めていく。

重点目標3 地域社会に開かれた学校づくり ①コロナ禍における保護者や地域社会との連携 ②情報発信の工夫と充実

地域支援部	3 地域社会に開かれた学校づくり ①コロナ禍における保護者や地域社会との連携	(継続 ・ 新規) ・センター的機能充実事業を広く地域に発信し、地域と連携をはかりながら本校の専門性を生かした具体的な支援を行う。	1 学校説明会を円滑に実施し、地域に対し適切な情報提供や助言を行う。 ・コロナ禍において安全かつ効果的な方法を各学部が工夫する。 ・就学、転学等に関する保護者からの相談に丁寧に对应しニーズに応える。 2 地域の幼児教育施設や小・中学校等の教職員等を対象に研修会を実施する。 ・事例研究会を開催し本校の専門性を生かした助言や情報提供を行う。 ・手作り教材展を開催しHPで発信する。	B	A : 45 % B : 52 % C : 3 % D : 0 %	評価項目なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	1・感染症対策を行いながら各学部ともに円滑に実施できた。市町教育委員会と連携を図り個別の相談や複数回の体験学習にも応じそれぞれのケースに対して丁寧に对应することができた。 ・実施時期や回数、内容について改善策が挙げられた。 2・研修会には主に幼児教育施設や小学校の教員が参加し支援についての意見を交換した。アンケートから有意義な研修で今後の支援に役立てたいという意見が多く得られた。次年度以降の内容については地域のニーズをくみ取りながら検討する。 ・教材展は研修会参加者のみ公開した。参加者の関心が高く、広く地域に公開する以前の形に戻せると良い。
		改善策	1・中学部において保護者や担任が、対象となる障害の程度や学習について学校全体を見て広く理解できる機会が必要との反省から、保護者向け説明会を1学期に実施する。(従来の形に戻す。) ・高等部においては感染症対応による2学期の分散開催を中止し夏季休業中に実施する。 2・アンケートより「保護者支援」「学習指導」についての希望が多かった。これらの希望をもとに今後の研修会について検討する。 ・教材展は人数制限をしながら地域公開する方向性で検討する。					
進路指導部	3 地域社会に開かれた学校づくり ②情報発信の工夫・充実	(継続) ・ 新規) ・保護者、教職員へ進路選択に向けた情報提供に努める。	1 保護者へ情報提供を図る。 ・ホームページ、進路便り等での情報提供の充実をる。 ・高等部は懇談等で「進路指導に関する手引き」を活用し進路決定までの見通しをもてるようにする。 2 教職員への情報提供を図る。 ・校務LANにて地域ごとの施設の情報提供を行い、懇談等で活用しやすいよう整備する。	B	A : 60 % B : 38 % C : 2 % D : 0 %	評価項目(8) A : 60% B : 36% C : 1% D : 1% E : 2%	反省・課題	1 ホームページの保護者閲覧ページに福祉施設説明会の事業所ごとに動画をアップすることで、当日参加できなかった保護者も視聴することができた。高等部では懇談時に手引きを活用することで、進路決定までの見通しを以前よりももちやすくなった。 2 チームスの活用でPDF化した新施設情報や福祉サービス情報を各学部職員に周知することができた。
		改善策	1 保護者に向けてホームページや進路便り、保護者会等で情報発信をさらに進めていく。 2 チームスで全教職員へ施設情報を発信して、さらに各学部で担任が懇談などで保護者に提示しやすいようにLANの整備をしていく。					
渉外部	3 地域社会に開かれた学校づくり ②情報発信の工夫・充実	(継続) ・ 新規) ・PTA活動やおおぞら会活動についての理解を求め、学校や保護者同士のつながりが深まるような取り組みを行う。	1 コロナ禍におけるPTA活動やおおぞら会活動の企画、運営をする。 ・より多くの方に参加していただける活動を企画し、活発化させる。 (標準服と体操着等のリサイクル活動、ベルマーク活動、イエローシートキャンペーンの紹介) ・進路指導部や情報部と協力して、保護者が求めている情報を広報誌やホームページ等で提供したり、リモート等で情報交換する機会を設けたりする。(卒業生の声、地域の施設情報)	B	A : 51 % B : 46 % C : 3 % D : 0 %	評価項目(7) A : 46% B : 42% C : 4% D : 2% E : 6%	反省・課題	・PTA活動：予定していた活動全てにおいて、代替を計画したり、活動内容を工夫したりして、中止することなく実施できた。標準服と体操着等のリサイクル活動は多くの方に利用していただけた。 ・おおぞら会：集会形式の行事は実施できなかったが、茶話会を役員会に変更して役員内の情報共有や今後の活動を検討する機会ができた。「おおぞら会だより」の内容を充実させ、会えなくてもつながっていることを強調した。在校生の進路選択や卒業後の生活をアドバイスするアンケートの依頼に快く応じてくださる会員の方が多く、有難かった。「二十歳を祝う会」は本校体育館で実施することができた。
		改善策	・中止の印象や、コロナ禍以前の活動と比較したつながりの希薄さを強く感じている保護者の方もいる。横のつながり、さらには縦のつながりを深め、情報共有する有意義な機会となるよう、活動内容を検討していく。保護者の求めている情報発信や子どもたちが楽しめる活動ができるよう、丁寧な説明を繰り返ししながら御理解と御協力を求めていく。					
地域支援部	3 地域社会に開かれた学校づくり ②情報発信の工夫・充実	(継続) ・ 新規) ・地域住民や保護者に向けて、学校の情報や地域とのつながりについて発信していく。	1 ホームページを毎週更新して学校生活の様子を伝えるとともに、保護者にはホームページについて懇談等で周知していく。 2 地域の施設での資料掲載、地域の回覧板等を通して、地域住民の皆様が学校について知る機会を設ける。 3 コロナ禍で地域の方との交流が厳しい中ではあるが、感染症対策をしながら学校から地域へ出て活動する機会を検討していく。	B	A : 51 % B : 47 % C : 2 % D : 0 %	評価項目(8) A : 60% B : 36% C : 1% D : 1% E : 2%	反省・課題	・HPや小金井駅での作品掲示を継続して行い地域への発信を行った。HPでの発信については見直しが必要。 ・今年度は栃木県主催の「とちぎユースチャレンジ応援事業」にエントリーして地域貢献活動を実施した。マリーゴールドの花を育てる活動では、近隣の上野花園さんに教えていただいて種から育て、咲かせた花を地域に飾らせていただいた。また、地域の清掃活動にも取り組んだ。各学部の実態に応じて、少しずつ地域へ出て活動することができた。
		改善策	・HPについては「学習の様子」(各学部からの発信)のページを充実させることで「今週の学校生活」は継続しない。 ・地域に出て活動する機会を継続して実施していく。 ・地域の方に本校で活動していただく機会を検討する。					

重点目標 4 教職員人材育成と専門性の向上①学び続ける教職員による授業力の向上②お互いの良さを認め、伝え合う教職員集団

研修部	4 教職員の人材育成と専門性の向上 ①学び続ける教職員による授業力の向上	(継続 ・ 新規) ・学校課題研究をさらに推進し、実践研究を積み重ねる中で、本校教職員の授業における企画力、授業力の向上を図る。 ・コロナ禍における各研修への柔軟な対応を行い、スムーズな実施と成果等の情報共有を行うことで、教職員の資質向上の一助とする。	1 昨年までの成果をもとに、3つの学校課題研究が、スムーズに他学部でも広がりを見せられるように、研修部全体、研究係、研究推進委員会、研究推進グループの情報共有と連携を図る。 2 研究紀要「しば」を滞りなく執筆することができる。7月：執筆担当者選出、10月：進捗状況確認、1月：執筆原稿提出、2月下旬：紀要完成 3月：発送 3 コロナ禍における初任研、基本研修、校内研修等の研修を柔軟に対応し、スムーズな実施と研修報告等を年度末の研修報告等で掲載・発表する。	B	A : 53 % B : 44 % C : 3 % D : 0 %	評価項目なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	1. 課題研究における情報共有や連携について、課題テーマで学部の連携等、年度当初考えた通りに行えてきていると思われる。これから研究紀要の執筆、まとめがあるため今後も検証を行いたい考える。 2. 研修や研究授業の持ち方については、ある程度の成果が見られてきていると思われる。働き方改革の時間設定等変更があるため、今後も状況に応じて柔軟な対応が必要である。
		改善策	1. 来年度の研究の方向性に応じて、引き続き組織改編が必要になると思われる。 2. 状況の変化に伴って、今後も柔軟な対応が必要になると思われるが、特に研究授業の授業研究会について、意識改革と全体への周知が必要になってくると考えられる。					
教務部	4 教職員の人材育成と専門性の向上 ②お互いの良さを認め、伝え合う教職員集団	(継続 ・ 新規) ・教務部としてのまとまりを意識し、係間の意思疎通を高めていく。 ・各係業務の共有化、共通理解を深め、円滑な係運営に努める。	1 teams等を活用し、係の業務遂行状況を係間で共有する。 2 係の業務を複数で処理し、正確な業務遂行に努めるとともに経験の蓄積を図っていく。	B	A : 49 % B : 49 % C : 2 % D : 0 %	評価項目なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	1 情報を共有することにより、他の係の業務遂行状況が分かり良かった。今後も円滑に係運営ができるようにしたい。 2 経験を重ねた先生が積極的に仕事を進めてくれたことで、経験の拡大にもつながった。特定の教員(チーフ、係経験の長い)の力に依存しがち。
		改善策	1 記載事項の確認方法について共通理解を図るとともに、係主任の言葉による統制のもと、Teamsも続けていく。 2 業務が確実に引き継がれるよう、業務の流れが分かるマニュアル等を次年度に向けて残していく。					
情報部	4 教職員の人材育成と専門性の向上 ①学び続ける教職員による授業力の向上	(継続 ・ 新規) ・情報教育に関する研修を行い教職員による授業力の向上を図る。	・教職員向けの情報モラル、機器やソフトウェアの活用方法等の研修を実施する。(教員向け研修の実施)「学習指導部と連携」【情報教育係】	B	A : 50 % B : 48 % C : 2 % D : 0 %	評価項目なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	・4月、9月の職員会議で個人情報、著作権に関する研修を行ったが、周知が十分でなかった。 ・ICT支援員に依頼し毎月情報研修を行った。(HP、パワーポイント、にWebアプリ「指書きレッスン」、情報機器、Excel等)まだ十分とはいえないが先生方の授業力の向上に少しでもつながった。
		改善策	・個人情報、著作権に関する研修を計画を立てて継続して行う。 ・先生方の情報に関する技術の向上に向けて来年度も希望する研修を行っていく。					
高等部	4 教職員の人材育成と専門性の向上 ①学び続ける教職員による授業力の向上	(継続 ・ 新規) ・3つの観点に基づき年間指導計画や単元指導計画を作成、改善することにより授業内容の向上を図る。	1 年間指導計画に基づいた単元指導計画の作成。(～5月末、10月) 2 指導計画に基づいた授業実践、反省後の学習の見直し。(～10月、3月) 3 授業実践や評価を生かし、次年度の年間指導計画等を作成する。(3月)	B	A : 45 % B : 52 % C : 3 % D : 0 %	評価項目なし A : % B : % C : % D : % E : %	反省・課題	・新たに作成したため、作成や反省に時間を要し、教員の負担感があったが、観点に基づいた目標を設定して指導計画を作成することで、実態に応じた指導内容や手立てについて見直す機会となった。 ・単元指導計画を見直す際に、実態に応じた目標や内容について確認することで、学習集団や実態に応じた内容に変更していくこと。
		改善策	・今年度同様、作成する教科を決めて段階的に進めることで教員の負担を減らしながら、内容の改善につなげる。 ・作成や反省のポイントとなるところを確認、周知しながら取り組む。					

1 安全・安心な学校づくり
①安全管理と防災・安全教育の充実

1 安全・安心な学校づくり
②心身の健康を守る保健・安全教育の推進

2 学習指導の充実
①ICTを活用した指導の充実

2 学習指導の充実
②自立と社会参加に向けたキャリア教育の推進

3 地域社会
に開かれた学
校づくり
①コロナ禍に
おける保護者
や地域社会と
の連携

3 地域社会
に開かれた学
校づくり
②情報発信の
工夫・充実

4 教職員の
人材育成と専
門性の向上
①学び続ける
教職員による
授業力の向上

4 教職員の
人材育成と専
門性の向上
②お互いの良
さを認め、伝
え合う教職員
集団